

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11) 実用新案出願公開番号

実開平4-114145

(43) 公開日 平成4年(1992)10月7日

(51) IntCl.⁵

F 1 6 F 13/00

B 6 0 K 5/12

識別記号

庁内整理番号

U 9138-3J

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1(全2頁)

(21) 出願番号 実願平3-26670

(22) 出願日 平成3年(1991)3月26日

(71) 出願人 000003148

東洋ゴム工業株式会社

大阪府大阪市西区江戸堀1丁目17番18号

(72) 考案者 高嶋 幸夫

愛知県西加茂郡三好町大字打越字生賀山3

番地東洋ゴム工業株式会社自動車部品技術

センター内

(72) 考案者 竹田 穆

愛知県西加茂郡三好町大字打越字生賀山3

番地東洋ゴム工業株式会社自動車部品技術

センター内

(74) 代理人 弁理士 宮本 泰一

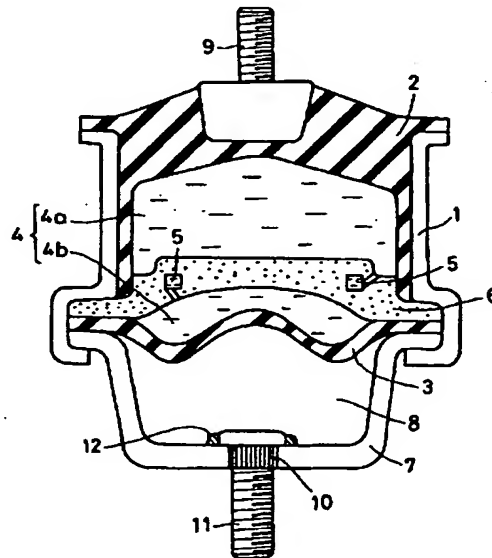
最終頁に続く

(54) 【考案の名称】 液封入式防振マウント

(57) 【要約】

【目的】 液封入式防振マウントにおいて、筒状本体金具の下端部に取着され、ダイヤフラムとで液室下方に空気室を形成する碗状取付金具と、該取付金具に取付られるボルトの取付強度を向上させ、かつ上記空気室の気密性を確保する。

【構成】 防振マウントの上配取付金具(7)にセレクション(10)を有するボルト(11)を圧入により貫通して設けると共に、該貫通部を接着剤あるいはシール剤の層(12)によってシールしたことを特徴としている。



(2)

実開平4-114145

1

【実用新案登録請求の範囲】

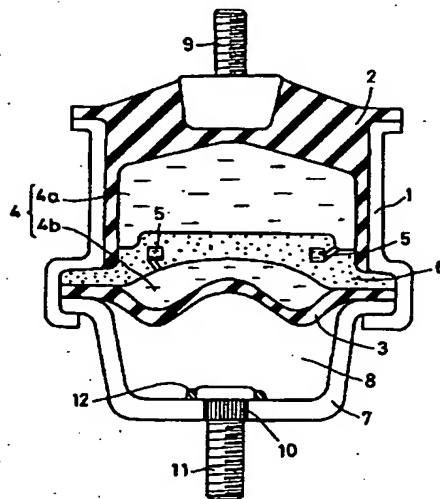
【請求項1】 筒状本体金具の上側開口部にゴム弾性体からなる防振基体を、下側開口部にシール状態にダイヤフラムを夫々取寄せしめて液室を形成すると共に、該液室をオリフィスを備えた仕切板にて分割し、かつ上記本体金具の下端部に筒状の取付金具を取寄せしめてダイヤフラムとの間に空気室を形成してなる液封入式防振マウントにおいて、上記取付金具にセレーションを有するボルトを圧入により貫通して設けると共に、該貫通部を接着剤あるいはシール剤の層によりシールせしめたことを

特徴とする液封入式防振マウント。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案実施例の液封入式防振マウントを示す断面図である。

【図1】



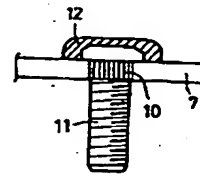
2

【図2】 本考案他の実施例の液封入式防振マウント要部を示す部分断面図である。

【符号の説明】

- | | |
|-----------|--------------|
| (1) | 本体金具 |
| (2) | 防振基体 |
| (3) | ダイヤフラム |
| (4) | 液室 |
| (5) | オリフィス |
| (6) | 仕切板 |
| (7) | 取付金具 |
| (8) | 空気室 |
| (9), (11) | ボルト |
| (10) | セレーション |
| (12) | 接着剤またはシール剤の層 |

【図2】



フロントページの続き

(72) 考案者 大谷 和平

愛知県西加茂郡三好町大字打越字生賀山3
番地東洋ゴム工業株式会社自動車部品技術
センター内

(72) 考案者 鎌田 恒夫

愛知県西加茂郡三好町大字打越字生賀山3
番地東洋ゴム工業株式会社自動車部品技術
センター内